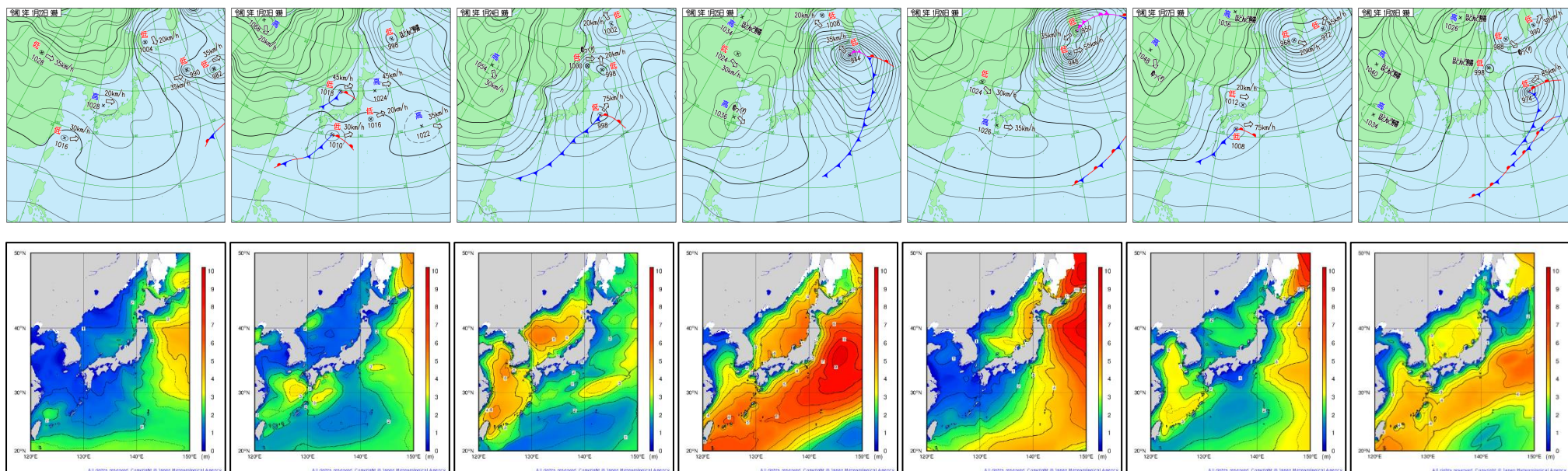


■天気図と沿岸波浪図 (1月22日～1月28日 ※毎日午前9時を掲載)

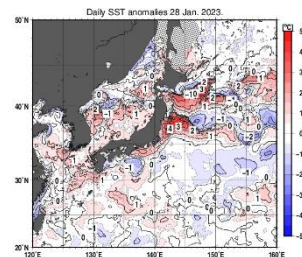


■気圧配置と波

22日、日本付近は移動性の高気圧に覆われた。日本周辺海域では比較的波は穏やかに推移した。23日、日本海と日本の南に前線を伴った低気圧が東進。東シナ海～四国沖を中心に波高3m。24日、低気圧が日本の東へ進み、25日にかけて日本付近は強い冬型の気圧配置となり、日本周辺海域では大荒れとなった。太平洋側、日本海側ともに波高4m以上のしけとなり、三陸沖では大しけとなった。26日、北日本中心の冬型の気圧配置。三陸沖～千島近海にかけて高い波が残った。28日、再び冬型の気圧配置が強まり、日本周辺海域は広く波高3m以上。

■海面水温

今期末にかけて、日本海域の海面水温は、平年並みの海域が拡大。東シナ海では、平年よりやや高い海域が縮小し、ほぼ平年並みとなった。太平洋側は、黒潮が離岸する潮岬沖を中心に、平年よりやや低い海域が継続。東海沖は、平年よりやや高い海域が続いた。一方、親潮が後退する三陸沖や北海道南東方沖では、平年よりかなり高い海域が継続した。サハリン東方海上では海水（黒い斜線域）が南下し、北海道宗谷地方に接岸している。



■海流の予想

黒潮は、九州東岸では、引き続き接岸して流れる。足摺岬、室戸岬、潮岬では、引き続き離岸して流れる。東海沖では、潮岬沖を南東に流れ、最南位置は30°N、137°E付近。伊豆諸島付近では、引き続き三宅島付近を流れる。房総半島では、引き続き接岸して流れるが、期間末には離岸する。親潮の南限位置は、40.5°N、146.5°E付近になる。親潮の面積は、平年より小さいかかなり小さい。対馬暖流の勢力は、平年よりかなり強い。

